

◇「中信ビジネスフェア2014」への出展による 栄養アセスメント・栄養相談

[はじめに]

毎年10月に京都中央信用金庫主催で地元企業、団体や大学、府、市の研究機関による大商談会が開催されている。本年度はその第26回目にあたり、当施設としては8回目（栄養クリニック開設前年度から出展）の参加となる。今年は10月15日（水）・16日（木）に京都府総合見本市会館（パルスプラザ）展示会場で開催され、274ブースを使用した異業種間での交流があり、大学関連の参加は14校であった。見学来場者数は一般市民を含む約8,000人であった。栄養クリニックは1ブースを使用し、指導員2名、クリニックスタッフ1名と学生ボランティアは食物栄養学科4回生から6名が参加した。

[参加目的と実施内容]

本ビジネスフェアの見学に来られた一般市民や企業の方々を対象に、栄養クリニックの開設目的やこれまでに実施したさまざまな活動事例をパネル媒体で紹介すると共に、今後予定されている事業紹介を行った（下図左）。また、健康維持や生活習慣病予防の市民への積極的な啓発活動の一環として、骨密度測定、ヘモグロビン測定、握力測定などを無料で実施し、これらの栄養アセスメント体験から各自の健康への関心を深めていただいた（下図右）。希望者には、結果説明や身長と体重の自己申告から体格指数（BMI）や理想体重（IBW）を求め、各自の健康管理に有益な食事と運動についての情報を提示した。また、個人的な栄養相談にも応じた。ボランティアとして参加した学生は将来病院や福祉施設等の管理栄養士を目指す学生であり、受付、測定の内容説明、測定実施を担当した。



ブース内の掲示物



貧血測定の様子

ボランティアの学生には、この体験を通して専門職業人としてのコミュニケーション力を養い、管理栄養士の資質向上に役立てることをねらいとして参加してもらった。

[成 果]

参加者は10歳代後半から90歳までと幅広く、2日間で約244名を受け付けた。そのうちの多くの方々が詳細な結果説明や栄養相談を受けられた。また、企業商談会のため、参加者の多くが20～60歳代であり、一般市民の参加は高齢者が多かった。毎年、栄養クリニックのコーナーを目的にご来場いただく方もおり、測定、栄養相談にお待ちいただく時間もあったが、学生、スタッフとも気持ちよく対応することができ、クレームもでることなくお待ちいただけた。また、握力、ヘモグロビン測定等、検査項目がいくつかあったが、これまでの経験からスムーズに測定を受けていただくことができた。測定値に問題がある方には、生活状況に応じた食事や運動を中心としたアドバイスを行った。初めて骨密度を測定した方も多く、他の検査項目と合わせて自分の健康状態に関心をもち、測定結果をふまえた生活改善の良いきっかけを与えることができた。

20～30歳代の若い年齢層でも骨密度が低い方々がおられ、特に若い女性の痩せた方にその傾向がみられた。これらの方々に若い時に骨貯金をする重要性や、これからのライフステージを健康にのりこえていくために今からの体作りがいかに大切であるかを説明、指導できたことは大きな意義があった。高齢者の方々は健康に関心が高く、ほとんどの方々が詳しい説明を求めて栄養相談も受けられた。「自分の骨量、貧血、体力、栄養状態を知ることができたので、来た甲斐があった」「聞きたいことがやっと聞けて、自分の食生活に自信が持てスッキリした」「医師には細かいことが聞けないが、具体的な食事の改善点が明確になった」などの感想をいただき、熱心にメモを取られる方もあった。

栄養相談の内容は、メタボ対策、ダイエット、糖尿病、高コレステロール血症、高尿酸血症、心臓病、関節痛、骨粗鬆症、ぜんそく、貧血、リュウマチなどさまざまであった。

主催者側からも「栄養クリニックさんの人気は高い」とのコメントを頂き、栄養クリニックの認知が高まり、さらに栄養クリニックで詳しい栄養相談をお願いしたいとの希望も数件いただいた。京都府城陽市にある麗峰園から商談の申し込みがあった。古来より健康食品として有名なナツメを使った商品、メニューの作成を依頼され、出来上がったメニューを掲載したり、リーフレットを使って栄養クリニックと協力して販売していきたいとのご要望だった。

ボランティアとして参加した学生からは、参加者と接することにより、一般市民の方々の健康に対する関心の高さに直にふれて、これからも勉学に励み多くのことを学ぶ必要性を強く感じた、との感想があった。大学内だけの学びでは学ぶことのできない多くのことを学外にでることにより学び、吸収することができたようである。

学生たちは長時間の活動にもかかわらず、終始笑顔で積極的な態度で好感が持てる対応ができていた。これからも栄養クリニックの行事に積極的に参加し、男女問わず幅広い年齢層の方々と接してコミュニケーション力、指導力をみがき、対象者から信頼される管理栄養士となるよう期待している。

(中村智子)